

## 57 難病のある人の福祉サービス活用による ADL・QOL 向上に関する研究

研究所 今橋久美子、深津玲子、病院 中村めぐみ、自立支援局 下山敬寛

### 【背景と目的】

平成 27 年に難病法が施行され、難病患者の社会参加を支援する施策が進んでいる。これまで難病患者を対象とした研究は治療や在宅ケアに関するものが中心であり、就労系福祉サービスを活用した難病患者の社会参加支援に関する研究はほとんど行われていない。本研究では、主として在宅生活をおくる難病患者が、就労系福祉サービスを利用して ADL・QOL 向上をはかることが可能か明らかにすることを目的とする。

### 【対象】

就労移行支援サービスを利用する 16 才以上 65 才未満の難病患者。ただし、本研究において「難病」は障害者総合支援法の対象 332 疾病とする。

### 【方法】

就労移行支援サービス利用開始時（初期）および 1 年後に、Barthel Index (BI)、World Health Organization Disability Assessment Schedule (WHODAS2.0)、World Health Organization Quality of Life 26 (WHOQOL26) を用いて対面で質問する。今回は初期評価の結果を報告する。

### 【結果】

平成 28 年 11 月 1 日から平成 29 年 10 月 31 日までの 1 年間で 13 名を対象に初期評価を行った。対象者は、男性 12 名（女性 1 名）、年齢：20 代 1 名、30 代 7 名、40 代 5 名であった。

表：難病のある就労系福祉サービス利用者の初期評価

番号	疾患群	BI	WHODAS 総合スコア	WHOQOL 平均値
1	神経・筋疾患	100	20.8%	4.54
2	神経・筋疾患	80	10.4%	2.38
3	神経・筋疾患	100	10.4%	3.85
4	神経・筋疾患	100	7.5%	2.85
5	神経・筋疾患	80	20.8%	3.46
6	骨・関節系疾患	80	25.5%	2.96
7	骨・関節系疾患	100	20.8%	2.92
8	骨・関節系疾患	85	34.0%	3.77
9	骨・関節系疾患	100	16.0%	3.54
10	視覚系疾患	100	9.4%	3.88
11	視覚系疾患	100	31.1%	2.88
12	皮膚・結合組織疾患	100	6.6%	4.08
13	免疫系疾患	100	15.1%	2.08

### 【考察】

初期評価の結果、疾患群、年齢、性別、機能評価、障害評価、QOL 平均値は、互いに相関がないことが確認された。1 年後に再評価を行い、サービス利用前後の変化の有無、領域、要因を明らかにする。